

小泉了諦（れいげみ） 僧侶。嘉永四年十一月五日越前國鯖江生れ、昭和十
 三年一月六日歿（一八五二—一九六）。號ニ天堂主人、僧虎、念阿、柳陰、
 鈍佛、靜所等。元治元年美濃の勤學の許に佛學を攻究、のち上京して
 小山春山、小野湖山の漢學詩文を、加藤千浪の和歌を、また慶應義塾
 で英語を學ぶ。更に博多の七里恒順の下で三年修業。明治二十二年誠
 昭寺派より山命を受け錫鬚（キヤウソウ）の留學、智昇大學校に入りスマンガラ大僧
 正の就き梵語、パーリー語を學び、梵典を研鑽。時ハエロンボの寄港
 した暹羅使節、比叻の歐洲行の使衆、トルコを経てフランスに入り、
 大統領カルノ、元老クレマンソー等顯官、名士四百餘名と前を講演、
 歐洲に於ける佛教宣布の嚆矢として喧傳せられた。次で各國を巡つて
 錫鬚の歸航し、二十四年歸朝。三十年歸江の歩兵隊隊設營、爾來軍隊
 布教師の任三十年に及んだ。書を能くし、また寺進の千餘部をこいふ。
 著書ハ『西游見聞記』（明治二十六年四月—二十六年六月福井・中山義樹編
 刊）、『忠孝』（大正七年一月一日京都・顯道書院）等。

